

令和4年度 第3回 海老名市にぎわい振興審議会 会議録

日時等	令和5年2月22日(水) 13:57~15:40 政策審議室		
議題	(1)「えびな元気にぎわい振興計画2021」の進行管理について (2) 令和4年度にぎわい振興事業について (3) 令和5年度にぎわい振興事業(案)について		
出席委員	羽田会長、三田副会長、鳩貝委員、加納委員、伊波委員、門脇委員、長委員、伊藤委員、半澤委員、勝田委員 計10名		
公開の可否	公開	傍聴者数	0名
事務局・説明者等	経済環境部長 金指、 経済環境部次長 吉沢、 商工課長 本多、課長補佐 後藤 にぎわい振興係 今野、増田、大谷		

1 開会

2 あいさつ

3 議題

議題1 「えびな元気にぎわい振興計画2021」進行管理について

■ 事務局より「えびな元気にぎわい振興計画2021」の実施進捗について説明

委員 さまざまな事業が動き出したという感じがある。座間は2年連続、綾瀬も3年連続人口が減っているが、海老名市だけ人口が増加しており、住みやすいまちだという意識がすごくある。

資料1-2の15番「市内まち歩きツアー開催」については、市民向けにやっているということか。

事務局 周知は広報えびなだが、市外の方も参加される事例がある。

委員 例えば泉橋のお酒を飲みに来るという理由で、遊びに来たいという人も増えるのではないかと感じた。相鉄も線を通すということは、それなりに乗降客を増やしていかなければいけないということもあり、そういう点で連携することはできないのかと感じた。泉橋のニュージャーマンとの取組みもすごく面白いし、こういうのが外に出ていけばもっといいと思う。

それから、海老名市は子どもに優しい市だと思う。私は学生時代にアメリカンフットボールをやっていたが、今回、富士フィルムが海老名市と商工会議所を含めて包括提携をし、海老名の名前をつけたアメリカンフットボールチームができたということで、素晴らしいことだと思う。子ども向けにフラッグフットボール

というスポーツがあるが、そういった競技を通して、企業と子どもたちを結びつけられるようにぎわいできればもっと名物になる。住みやすく、子どもに優しく、子どものスポーツの振興もできるまちになる。もっと企業を使ってもらって、海老名のいいところを発信できればと思う。

委員 今の意見について、事務局から何かあるか。

事務局 市外へという話だが、コロナ禍ということでずっと実施できていなかったが、日本橋に海老名のいちご等の販売を行うイベントがあった。今年も雪の影響で中止になったのだが、はたして日本橋なのかという意見もあった。鉄道の沿線など、今後そういったことも考えていかなければならないと思う。アメフトについても話があったが、2月5日に海老名クリーン大作戦を有馬小学校区で実施した。その際に、選手自体は今回来られなかったが、富士フィルムのアメフトのチームがぜひ参加をしたいということで、そういったコラボレーションを少しずつ進めていこうと思っている。例年夏に実施しているが、今年は冬に実施したため、人数は少なかったが、当日は200人ほどが参加した。今回関わりができたので、いろいろな事業にも展開ができると思う。経済環境部だけでなく、庁内さまざまなセクションがそういう試みをしていく必要があると感じた。

委員 資料1-2の6番「各種集客イベントの企画」について、ビナウォークのアイススケートは実施したことによってクレームや問題があったか。自分が通った時に、どこを通ったらよいのかわからなかった。それから7番の「海老名駅間開発との連携による、新たな「にぎわい」スポットの創出」について、キッチンカーについてはどこのスペースなのか。

事務局 キッチンカーについては、小田急電鉄の敷地で、以前に小田急がコンテナを置いていたもう少し図書館側の芝生広場の続きである。

委員 前にそこで音楽のイベントをやっていたか。

事務局 最近では音楽イベントもマルシェの時に合わせて行っている。

委員 西口のエリアについてもある程度場所が埋まってきたが、東口の中央公園のような人が集まる場所があるかと思う。

事務局 アイススケートの動線の話があったが、公園の駅側のところに設置していたので、歩道がかなり狭くなっていたのは事実である。管理者側にも意見が届いているそうなので、来年度以降、実施するにあたっては、歩道の確保については十分留意していくと聞いている。

委員 アイススケートは小学生だけか。

事務局 金額は異なるが、大人もできる。

委員 どのくらいの人数だったか。

事務局 まだ人数については把握していない。今後情報収集したい。年末にかけて利用者が多かったと聞いている。

議題2 令和4年度にぎわい振興事業について

■ 事務局より、令和4年度にぎわい振興事業について説明

- ・プレミアム付商品券事業、スタンプラリー事業、シェアサイクル事業、イルミネーション事業について

委員 スタンプラリーだが、人数がすごく増えたのは実感している。

委員 景品が3つ程当たっている家族もいて、当選者が偏っているのかと思った。商品券については、個店限定券の使い道がないため、市のごみ袋をこれで買わせてくださいと必ず言われる。お店をやっているので、その2点がすごく気になった。

事務局 スタンプラリーの景品については、去年までは参加者全員に当たっていた。景品が潤沢にあったので、できていたのだが、今年は参加者が多くなったこともあるので、そこは留意してやっていきたい。

委員 楽しみでやっている家族が多くていいと思う。

委員 アンケートの内容を拝見していると、非常に好評だと思う。

委員 資料 4-1「利用回数の考え方」について、自転車インアウト等の記載があるが、アウトは隣の市もやっているということか、海老名市の分のポートを隣のまちまで増やしているということだったか。

事務局 茅ヶ崎や横浜等、県内いろいろな箇所で開催している。令和4年11月時点で859箇所、神奈川県内にステーションがある。

委員 今後どうしていきたいのかなと思った。ポートを増やすことがいいことなのか、それとも利用者を増やすことがいいことなのか。今は、自転車だけでなく、キックボード等も事業者がとりあえず運用させたくて、行政に言っているケースが多い。そうすると、住民サービスとしてうまく使うために、どうしていくのか。先ほど、通勤で使っている人が少ないと言っていたが、通勤で使うとなると、ポートの位置などの検討も必要になる。土日が多いとなると、回数だけじゃなくて、利用目的がわかると、もう少し仕掛けられるのではないか。ポートがある場所も公園を中心としているが、土日に利用者が多いのであれば、お店の駐車場に置いてもいいという人も出てくるかもしれない。今後うまく要望を出して、市民サービスにつなげていければいいのかと思う。

スタンプラリーの応募数字が増えていないのは、店舗数が増えていないので、数が倍になっていなくてもいいと思う。マンネリ化だという話もあったが、正直3、4年でマンネリ化と言われるのは困る。先ほど、参加店舗に大型店が入る等の話もあったが、集め方のパターンを増やすのもいいと思う。例えば、ランクを付けて、すごい集めた人と、そうでない人で分けたり、100以上あるので、ブロックを分けたりするスタンプラリーもある。有名なのは、神田のカレーのスタンプラ

リーで、神田はカレー屋さんが 100 店舗ほど入っていて、それをランダムにブロックに分けたりしている。例えば今回 100 店舗あるなら、25 店舗ずつ 4 ブロックに分けて、ブロックに大型店舗を散らしていく。そうすると、大型店で集めても、違うブロックになるので、スタンプを全部集めることはできない。コンビニもたくさんあるので、散らせばよいのではないか。そうすることで、参加店舗も増え、台紙を置く場所が増えれば、参加人数も増えるかと思う。ぜひ続けてほしい。

委員 事務局はシェアサイクルについて、このデータをどのように評価しているのか。
事務局 資料 4-2 は走行の軌跡や一時駐輪をした場所などを示している。今後こういったデータをにぎわい振興にどのように関連づけられるかということが重要だと考えている。実際にシェアサイクルは観光的な側面と都市交通としての通勤・通学利用の側面があるかと思う。周知を図るためにステーションを増やすことも非常に力を入れているが、シェアサイクルを通じて、海老名市に回遊性を持たせる、にぎわいにつなげていくというのが、私どもの取組みとして必要なことだと思っている。その中で、資料の一時駐輪という図について、赤丸のところはステーションがないのに一時駐輪されている場所を示している。これを集計していくと、買い物や飲食をするために、一時駐輪をした可能性があると考えられる。これが海老名市内のにぎわいスポットにつながってくる可能性もあるので、こういったところにステーションを増やしていく等、そういったデータ活用を今後は進めていきたいと思っている。

資料 4-1、3-2-7 のヒートマップについて、色の濃い部分が利用率の高い部分を示しているが、土曜日の日中が特に濃くなっている。3-2-9 の利用時間のデータと合わせ見ると、かなり長時間利用している人がおり、こういう人が市内回遊をしている可能性が高いので、にぎわいにつながっているのではないかと推測される。平日の通勤・通学の利用とともに、にぎわいの部分も強化していきたいと考えている。

委員 EBINA CITY LIGHTS 2022 について、点灯式と節電対応をしたということだが、点灯式は多くの方々が集まり、にぎわい振興につながるイベントになったと思う。節電については過去のピークのデータに基づいて行っており、環境に配慮しており良い。電気を暗くすると人が集まりづらくなるので、そこを企業等と一緒にコラボレーションして、人が集まるイベントをやるとさらにいいのではと思う。

委員 資料 5-2 関連イベント一覧について、やる場所が固定化されている。中央公園等に限定されているので、他にできる場所があれば、そういった場所を追加したほうがよいのではないか。

事務局 イルミネーション自体が海老名駅東西をつなぐということで、駅周辺で行って

いる。関連イベントも駅周辺のイベントに集中している。だが、今年度、高座クリーンセンターのリユースイルミネーションも開始され、駅以外のところでもこういった動きがあるので、来年度はもう少し広範囲でイルミネーションを盛り上げられたらと考えている。

議題3 令和5年度にぎわい振興事業の検討事項について

■ 事務局より、令和5年度にぎわい振興事業の検討事項について説明

委員 補助金の比率と上限を教えてください。

事務局 要綱の中に、補助金の上限は設けたいと考えており、今のところ100万円で検討している。補助率は明文化せずに、審議会にはかり決定していきたいと考えている。今は図では1/2に見えるように示しているが、決まっているわけではない。

委員 110万の事業で100万請求してくる人が出てくるのではないかと。申請者も補助率がないと困ると思う。補助で使えるお金も、どのようなものに対してお金を使っているのかということもあると思う。補助金を出すと、イベント出資する可能性が高くて、持続的な、長くにぎわいが持続できるような仕掛けに使ってもらえたほうが本当はいいと思う。補助金をイベント会社に投げて終わりというケースも多い。特定の団体とは書いてあるが、そのあたりを要綱作りの時に工夫したほうが良いと思う。もちろん審査があるが、沢山申請がきてしまうと、審査もきつい。ある程度、最初の段階でハードルを設定しておいたほうがいいと思う。総予算もあると思うし、件数の目安もあったほうがいい。ある自治体で審査員をやったことがあるが、主催する担当課が補助率だけ決めて、上限を決めなかった。開催した説明会において、5000万予算持っていたとして、本当にいい企画だったら、その企画に対し全額補助する旨の説明したところ、費用のかかる企画がたくさん来てしまっていた。結局、本当にやりたいところに数百万ずつ分けて出していくこととなった。応募段階でしぼれるような状況はつくっておいたほうがいいと思った。

委員 補助率をあえて設けないというのは、事務局として、かなり強い考え方なのか。

事務局 現状にぎわいにつながるような補助金には、がんばる商店街応援事業補助金があるが、さらににぎわいにつながるように上乘せをしていきたいと考えている。今までの既存の補助金は1/2というのがほとんどだったが、あえてそこにこだわっていないため、現在、補助率については定めないという考えでいる。ただ、全事業を補助金でまかなうということになると、思いがないのにイベントを企

画されてしまう可能性もあるので、各団体が自前でお金を出してでもそのイベントをやりたいというものに対して、補助金は出したいと思っている。ただ、内規は必要だと思っている。

委員 海老名扇町エリアマネジメントがにぎわいにつながるイベントをかなりやっているが、そこは申請してもよいのか。

事務局 一般社団法人も該当してくる。ただ、市から別に委託でイベントの事業費をもらっていたり、指定管理料の中に含まれているときは、今のところ除外と思っている。

委員 ソロプチミストは市民まつりにお店出しているが、これについてはどうか。

事務局 広く周知、誰もが参加できる事業というのが基本である。内容があがってきたら精査したい。ただ、屋内の合唱やコンサート等のイベントについては限られた空間で、限られた人が参加するという点で、対象から外すイメージでいる。もう少し、文化的な面と産業的な面が融合するような、広いイベントについてにぎわいが創出されるだろうと考えている。

委員 私自身、農林水産省の補助金について、ある地域が申請しようとしていて、その相談に乗っている。その地域がお茶の産地なので、茶業の振興を考えて、茶会をイベントとしてやろうと思っているのだが、茶会のときに使うであろうテーブルや下に敷くもの等、そういうものまで認められるのかということ聞いてみたが、他のものに転用できる可能性がある備品はだめだと言われた。そのイベントに必要な不可欠で、かつ他に転用の可能性がないものが対象と言われた。にぎわい振興補助金はおそらくソフト面での事業に対する補助だと思うが、イベントになると、それに伴う備品が絡んでくるので、それをどこまで認めるかといったレベルまで掘り下げて考えておかないと、実際判断するときに困る。経済産業省や中小企業庁、農林水産省等はすごく細かいので、その辺を参考してみると良い。

実際の運用にあたっては、重々気をつけていただきたいところが委員の総意であると思う。実施していくにあたっての細かな部分については相談に乗るので、事務局では慎重につめていただきたい。

4 閉会挨拶